

の解体を支援いたします。
 今後も、地域コミュニティの拠点維持の観点から支援を行ってまいりたいと考えております。

(5) 公共インフラの整備について

国においては、令和7年6月に閣議決定された「第1次国土強靱化実施中期計画」の中で、特に推進が必要となる施策として、防災インフラの整備・管理、ライフラインの強靱化などを掲げております。

本町におきましても、防災・減災に資する整備をはじめ、既存施設の老朽化対策、安全対策など念頭に、島根県と連携を図りながら、事業を進めてまいります。

道路関係では、県事業による改良工事が国賀海岸線、珍崎浦郷港線で引き続き行われる予定となっております。

町事業では、摩天崖駐車場の整備、町道大山線の拡幅、通学路の安全対策及び町道の老朽化対策をすすめます。

また、山地の有効活用を図るため、林道高崎線の整備、林道焼火線の未舗装区間の整備、林道黒木線の落石対策を継続して行ってまいります。

港湾関係では、町事業による大津地区の越波対策について順次計画を進め、また老朽化対策として波止港において施設修繕の工事を着手していきます。

漁港関係では、町事業による珍崎漁港内に臨港道路の工事を進めてまいります。

砂防関係では、県事業による別府地区の中別府川、西ノ島小中学校付近の太井谷川、倉ノ谷地区の倉ノ谷川で整備が継続され、治山事業でも県事業による、物井地区、市部地区で整備が継続されます。

新年度の住宅整備事業では、公営住宅で国の交付金を活用して老朽化施設の更新を行ってまいります。

また、西ノ島総合公園でも、国の交付金事業を活用し、令和8年度から順次改修を進めてまいります。

(6) 上下水道について

浦郷地区内の老朽管路の更新を通じて耐震化率の向上を図り、また美田浄水場の臭気対策に向けた施設改修を行ってまいります。

下水道関係では、東部地区、浦郷地区で施設の老朽化対策を行うとともに、美田・東部地区の施設集約を含めた広域化に向けた事業を継続してまいります。

(7) 環境衛生について

本町では、資源ごみの回収や島外搬出により、リサイクルの推進と循環型社会の実現に取り組んでいるところで

す。町民の皆様のご理解とご協力により、近年リサイクル率は上昇してきましたが、県内他町村と比べますと低い状況ですので、引き続きリサイクル推進に向けて皆様のご協力をお願いいたします。

また、新火葬場の整備については、令和8年度は造成工事と進入路の拡幅工事に着手することとしております。

〈基本方針〉

活気あふれる「わがこ」をつくる

(1) 水産業について

まさ網漁業は、好調に推移してまいりましたが、令和7年の漁獲高は約18億円となり、前年比22・7%の減となりました。水産業の動向は地域経済に影響が大きいことから、今年の豊漁を強く期待するとともに、町としても、水産業の中核をなすまさ網漁業の安定的な継続をバックアップしてまいります。

令和7年度に続き、令和8年度におきましても国の事業を最大限に活用し、まさ網船団の新造船建造に対する支援を実施してまいります。

また、離島漁業再生支援交付金事業を通じ、種苗放流やウニ類の駆除による漁場生産力の向上を図るとともに、西ノ島産水産物の販路開拓や次世代の担い手確保など、全域集落が一体となって取り組む活動を支援してまいります。

(2) 「ブルーカーボン」の取り組みについて

令和7年度に実施した海藻類の現存量調査の結果に基づき、令和8年度は、その二酸化炭素(CO₂)吸収量を価値化する「Jブルークレジット」の認証

取得に向けた申請を行う予定としております。

本町の豊かな海が育むCO₂吸収量を、クレジットという市場価値のある形へと転換し、その売却収益を藻場の再生など水産業振興に再投資する循環を通じ、豊かな海洋環境と活気ある漁業を次世代に引き継いでまいります。

(3) 観光関係について

令和7年の観光入込客数は、約4万7000人で、前年比5300人ほど増加しました。

隠岐ジオパーク推進機構や、町観光協会が取り組む企画乗船券発行事業に加え、豪華客船受入事業などを支援し、観光客の増加を図るとともに、滞在時間の延長、観光消費額の増大につなげてまいります。

また、新たにインバウンド客誘致への対応として、令和8年度は大阪の観光案内所を活用して訪日外国人向けのプロモーション活動、また、訪日外国人向けツアーコンテンツ販売サイトでのツアー販売、多言語による西ノ島町の記事配信に取り組んでまいります。

(4) クルーズ船の寄港について

令和8年度は外国船を含め、4回の寄港が予定されております。

10月に寄港する予定のMITSUI OCEAN SERVICEは令和8年9月に運航が開始される予定の船で、県内では浦郷港が初寄港となります。

本町の魅力を満喫していただけるよう、町観光協会と連携しながら、準備を進めてまいります。

(5) 岩ガキ体験の

モニターツアーについて

岩ガキ養殖発祥の地として島外へのアピール、地域資源を活かした誘客の推進に向けて、岩ガキ体験ツアーの企画を進めております。岩ガキの養殖現場や磨き作業の見学の後、地元宿泊施設で岩ガキを食べて楽しむツアーの行程を開発し、まずはモニターツアーとして検証を行うこととしております。

町内で岩ガキを食べることができ、機会を創出し、人を呼び込み、にぎわいをもたらすため、旅行商品化に向け、生産者、観光事業者と連携して取り組んでまいります。



▲ 町の特産品のひとつ岩ガキ

(6) 畜産業について

令和7年の市場取引額は約1億7000万円、令和6年と比べて約4000万円増となりました。

市場価格の上昇の背景には、全国的な繁殖農家および供給頭数の減少に加え、円安等の影響により輸入牛肉の価格が高騰していることが挙げられます。

町としては、町有の優良雌牛の活用など本町産子牛の品質向上、生産力向上対策として牧柵整備や雑灌木の除去、公共牧野整備に引き続き取り組んでまいります。

公共牧野の効率的かつ効果的な活用方法の検討については、県、JA、和牛改良組合などと連携し検討を進めてまいります。

また、畜産業の担い手確保対策として、令和8年度から畜産業の承継、就農を志す者を「地域おこし協力隊」として任用し、新規就農候補者の育成に努めてまいります。

また、島前3町村が連携して取り組んでおりました獣医師確保については、新たに1名が採用され、島前3町村にそれぞれ獣医師が常駐する、3名体制となる見込みです。

(7) 林業について

森林経営管理制度に基づき、森林整備の推進と林業従事者の確保・育成に取組む事業体へ森林環境譲与税を活用して支援を行ってまいります。

令和8年度まで延長されたふるさと

の森再生事業では、島根鼻において下刈り及び除伐を実施し、健全な森の育成と景観向上に努めてまいります。

(8) 社会教育について

社会教育では、交流を通じて地域の絆を深め、夢や目標に向かって自らを磨くことができる社会教育の推進をはじめ、生涯学習、社会体育及び文化活動の一層の充実に取り組みでまいります。

令和7年度に実施したクリスマスダンスパーティーなどの成人講座や、土曜よろず朝市などでは、企画立案の段階から地域や各種団体と協働し、参加型の事業として展開することで、より一層の交流促進を図ってまいります。



▲ 月2回開催される土曜よろず朝市の様子

(9) ふるさと納税について

令和7年度中の寄付は4500万円程度と、令和6年度から800万円程度の減少を見込んでおります。

主力の返礼品であるサザエが、不漁により受け付けを停止した期間があったことや、10月以降、ポータル事業者のポイント付与が見直されたことなどが影響したものと受け止めております。

令和8年度から、宿泊や観光船など地域での体験消費の追加など返礼品の充実を図りましたので、今後も委託事業者からの提案を取り入れながら、返礼品提供事業者の皆さんと連携して、地域の魅力発信に取り組みでまいります。

(10) 地域間交流について

地域間交流につきましては、鳥取県江府町や大阪府堺市で開催されるイベントなどに参加を予定しており、本町の情報発信を進めるとともに、交流の発展、関係人口の拡大に向けた取り組みを、検討してまいります。

また、第17回国土交通大臣杯全国離島交流中学生野球大会、いわゆる離島甲子園が、8月に隠岐の島町で開催されます。

島外との交流機会の少ない全国の離島中学生が一堂に会するこの大会に出場する、本町の野球チームの参加を支援し、野球を通じた「島」と「島」の交流を図ります。